**日本史Ｂ学習アドバイス**

**１．共通テストを解くうえで必要な学力**

2023年度共通テストに基づいて、その対策を考えてみると、基本的に要求されている学力は出来事の因果関係を正しく理解しているか、歴史名辞の意味を正確に理解しているか、といったことが中心です。

**２．史料・図版・統計表など資料を利用した出題が目立つ！**

共通テストでは史料・図版・略系図・統計表など資料を利用した設問が多く出題されています。受験生に思考力・判断力を求める共通テストでは、今後も資料重視の姿勢は変わらないでしょう。史料・図版・略系図・統計表などの読解力・分析力の養成は、高得点を取るためには不可欠です。

**３．問題を解くことから全てが始まる！**

2024年度共通テスト受験生には、とにかく問題演習量の確保を徹底してほしいと思います。まだ解いていなければ、まず2021～23年度の3年分の共通テストの問題を解きましょう。実際の問題を解くことで、思考力・判断力を求める共通テストの問いの立て方を感じることができます。そのうえで本格的な学習計画を立ててください。そして、学習を進める際、市販の共通テスト対策問題集を利用するなどして問題演習量を確保することを忘れないようにしましょう。また、当然ながら思考力・判断力を育成する前提として知識を身につけることも重要です。知識面の強化を怠っては、高得点は取れません。多くの過去問がある旧センター試験の問題を積極的に解くなどして知識面の強化をはかりましょう。多くの問題を解いて実戦力を高めていってください。

**2024年度共通テスト　問題構成と設問別分析**

**問題構成**

| **大問** | **分野** | **配点** | **マーク数** |
| --- | --- | --- | --- |
| 1 | 印刷の歴史 | 18 | 6 |
| 2 | 日本古代の食物 | 16 | 5 |
| 3 | 中世社会の特色 | 16 | 5 |
| 4 | 近世の輸出入品と社会・経済との関係 | 16 | 5 |
| 5 | 「明治はじめて物語」（洋服・銀行） | 12 | 4 |
| 6 | 第一次・第二次世界大戦後の日本と国際社会 | 22 | 7 |
| 合計 | | 100 | 32 |

**設問別分析**

**第1問**

印刷の歴史をテーマとする文章を素材に、古代から近代までを総合的に問うている。共通テストの本試験としては初めて会話文以外からの出題となった。問1は、下線部の「兵乱」が藤原仲麻呂の乱のことであると判断して解答したい。問2の年代配列問題は、I～IIIの内容から具体的な歴史名辞を想起したい。問3は、Ｘについては六角氏が美濃国・近江国における座の特権を保護している点、Ｙについては「諸役あるべからず」が税の免除をさす点を、注も参照しつつ慎重に読み取りたい。

**第2問**

日本古代の食物に関する高校生の会話文を素材に、古代を総合的に問うている。問2は、史料と表の内容を対照しつつ、解答する必要がある。問4は、会話文中の『延喜式』の規定に関する部分に着目しつつ、写真4・史料2の内容を読解して正誤を判断することが求められており、受験生は解答に手間取っただろう。問5の空欄イは、『日本三代実録』が完成したのは10世紀初頭の醍醐天皇の時代であり、ｄにみえる藤原陳忠や「尾張国郡司百姓等解文」で訴えられた藤原元命のような貪欲な受領が増加するのは10世紀後半以降であると判断して解答したい。

**第3問**

中世社会の特色に関する高校生の会話文を素材に、中世の政治・社会を中心に問うている。問2のｃ・ｄは、史料2を慎重に読解し、御家人ではない下久世荘の名主・百姓が、御家人が「売主」の場合を対象としている永仁の徳政令の適用を求めている点から判断したい。問4は、史料4については「他国より嫁をとり」「婿にとり、娘をつかわす」とどうなるのか、史料5については「喧嘩」とはどういう行為なのかを考え、それぞれＸ・Ｙに該当すると判断したい。問5は、設問文の「実力を行使して問題を解決」という部分に着目して選択肢を吟味したい。

**第4問**

近世の輸出入品と社会・経済との関係に関する高校生の会話文を素材に、近世の外交を中心に問うている。問2は、IとIIIの前後関係の判定が難しく、受験生は苦戦しただろう。問3のＸは、18世紀初頭の海舶互市新例が金・銀流出防止のために長崎貿易を制限したことを想起し、「17世紀末に中国からの来航船が減り、貿易額も減少した」という箇所を誤りと判断したい。問4は、史料1の内容が読み取りにくいうえ、選択肢も正誤の判断が難しいため、受験生は解答に苦労しただろう。

**第5問**

日本史探究部の高校生が作成した発表原稿を素材に、幕末から明治時代を総合的に問うている。問1のイは、空欄の前にある永井荷風の文章をヒントに解答したい。問2のＹは、1866年の改税約書によって関税率が引き下げられ輸入が増加したことを知らなくても、一般論として関税率が引き上げられると輸入には不利になる点から誤文と判断できる。問3の選択肢3・4は、史料から三井組・小野組による出資が第一国立銀行の前提となったこと、および金禄公債証書をもとに国立銀行が設立されたことを読み取って解答したい。

**第6問**

二度の世界大戦後の日本と国際社会の関係に関する高校生の発表準備を素材に、近現代を総合的に問うている。問1は、Ｘについては、史料3の「主力艦」からワシントン海軍軍縮条約と判断したい。Ｙについては、「ワシントン会議で廃棄された条約」から日英同盟協約と石井・ランシング協定を想起したうえで史料を吟味したい。問6の年代配列問題は、条約の内容に関する正確な知識が必要とされ、戸惑った受験生もいただろう。

**平均点の推移**

| **年度** | **2024年度** | **2023年度** | **2022年度** | **2021年度** | **2020年度** |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 平均点 | 56.27 | 59.75 | 52.81 | 64.26 | 65.45 |

* 2021年度は大学入学共通テスト第1日程の平均点
* 2020年度は大学入試センター試験の平均点